

## 21 都市の発達と元禄文化

- (1) 政治の中心地で、将軍の城下町である江戸は何と呼ばれたか？  
( )
- (2) 18世紀初めの江戸の人口はおよそ何万人であったか？  
( )
- (3) 全国の経済の中心地であった大阪は何と呼ばれたか？  
( )
- (4) 大阪には、諸藩が米や特産品を販売するための施設が設けられた。この施設を何というか？  
( )
- (5) 文化、工芸の中心地であった京都でつくられた工芸品を1つ挙げなさい。  
( )
- (6) 江戸、大阪、京都の三大都市を総称して何というか？  
( )
- (7) 問屋や仲買などの大商人の同業組織を何というか？  
( )
- (8) 金銀の交換や金貸しを行った商人を何というか？  
( )
- (9) 「現金かけ値なし」など、当時としては画期的な商法で繁盛した越後屋呉服店を開いた人物を答えなさい。  
( )
- (10) 儒学を奨励した、江戸幕府5代将軍の名を答えなさい。  
( )
- (11) 儒学の中でも身分秩序を重んじ、江戸時代には幕藩体制を維持するための教学として幕府の保護を受けた学派を答えなさい。  
( )
- (12) (10)の将軍が出した極端な動物愛護令を何というか？  
( )
- (13) 6代、7代将軍に仕え、(10)の将軍の時代に落とされた貨幣の質を元に戻し、長崎貿易を制限して金銀の海外流出を防ぐなど、政治の立て直しを図った儒学者の名を答えなさい。  
( )
- (14) (13)の人物が行った政治は何と呼ばれるか？  
( )
- (15) 江戸で編集が始められ、水戸藩の一大事業として改訂作業が続けられ、明治期に完成した歴史書の名を答えなさい。  
( )
- (16) (15)の歴史書の編集を始めた水戸藩当主の名を答えなさい。  
( )
- (17) (10)の将軍の頃、上方の経済力を持った町人を担い手として栄えた文化を何というか？  
( )

- (18) 町人の生活や風俗をありのままに描いた小説を何というか？  
( )
- (19) (18)の代表的作家で、『好色一代男』『日本永代蔵』『世間胸算用』などを書いた人物の名を答えなさい。  
( )
- (20) 浄瑠璃と三味線の伴奏にあわせ、人形を操る演劇を何というか？  
( )
- (21) (20)の語り手のためにすぐれた台本を書いた人物の名を答えなさい。  
( )
- (22) 出雲の阿国が始めたかぶき踊りをもとに発達し、上方では坂田藤十郎、江戸では市川団十郎などの名優を出した演劇を答えなさい。  
( )
- (23) 連歌から派生した文学は、『おくのほそ道』の著者によって芸術にまで高められた。a)この文学の名、b)『おくのほそ道』の著者をそれぞれ答えなさい。  
( a ) ( b )
- (24) 江戸初期に「風神雷神図屏風」を描いた人物の名を答えなさい。  
( )
- (25) (24)の人物などの技法を取り入れ、大和絵風の華やかな装飾画の分野で活躍した、絵師であり工芸家でもある人物の名を答えなさい。  
( )
- (26) 「見返り美人図」を描いた人物の名を答えなさい。  
( )
- (27) (26)の人物を祖とする、町人の風俗を描く風俗画を何というか？  
( )
- (28) 宮崎友禅が考案した染色技法を用いた小袖が流行した。この染物を何というか？  
( )